

# 令和6年度 学力向上プラン

学校名 中央区立城東小学校

## 学校の教育目標

- |                 |                 |               |
|-----------------|-----------------|---------------|
| ○心豊かで思いやりのある子   | ○自ら考え学ぼうとする子    | ○進んで正しいことをする子 |
| ○最後までねばり強くがんばる子 | ○健康に気をつけ体をきたえる子 |               |

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

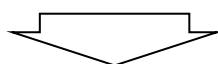
- |                                       |
|---------------------------------------|
| ○基礎・基本の学力を活用し、問題を解決していく力              |
| ○対話的、主体的に学びを深め、獲得したことを次の学習や生活に生かしていく力 |

令和6年度「学習力サポートテスト」や令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

|    | 児童・生徒の学力の課題   | 主な要因   |
|----|---|--|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> <li>前学年で学習した漢字の読み書きについて、定着が不十分な児童が見られる。</li> <li>第5学年の言葉の学習における修飾語の理解や語彙の理解、漢字辞典の使い方が目標値を下回っている。</li> <li>第6学年の「登場人物の心情について、描写を基に捉えている。」「文章を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている。」という2つの項目で誤答が多く、物語の読み取りに課題が見られた。</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の送り仮名が正しく理解できていなかったり、定着のためにかける時間が不足していたりする。</li> <li>どの言葉が何を修飾しているのかという言葉の関係性が身に付いていない。</li> <li>自分の考えを話すことで表現はできても、書いて文章にすることには慣れていない、もしくは抵抗があると考えられる。また、語彙の減少による表現能力の低下も考えられる。</li> </ul> |
| 算数 | <ul style="list-style-type: none"> <li>第4学年の「数直線上に示されて分数の読み取り」が、本調査目標値より9ポイント下回っている。</li> <li>第5学年の「平行四辺形の作図」が目標値より18ポイント下回っている。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>数直線の1目盛りの読み方や、右に行くと数が大きくなるなどの基本事項が定着していない。個々に応じた評価・支援が十分でない。</li> <li>正確に平行を描くことや角度を測ることに習熟していない。</li> </ul>  |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> <li>第4学年の「地図の読み取り」や「地図記号の理解」で目標値を6～10ポイント以上下回った。</li> <li>第5学年の「くらしを支える水の学習」において、節水のための工夫を考える項目が目標値を下回り、理解が二極化している傾向がある。</li> <li>どの学年においても資料を読み取り考察する力に課題がある。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>地図の読み取り方の理解や活用の経験不足から十分定着していない。</li> <li>得た情報から思考、表現する力が不十分である。</li> <li>資料を読み取り、考察する力、自分の考えを文章で表現する力の育成が不十分である。</li> </ul>   |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> <li>第4学年においては、ほとんどの分野で区平均や目標値を下回っている。</li> <li>第5学年においては、ヒトの腕の筋肉の動き方の理解に課題が見られる。</li> <li>第6学年においては、「もののとけ方」や「けんび鏡の使い方」、「どんぐりの養分について仮説を立て、問題を解決する実験の方法を構想し、指摘できる。」という問題で誤答が多かった。実験道具の使い方等の知識・技能、実験の流れ、解決方法の</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>植物の育ち方、昆虫の胸に足がついていることなど知識面の定着が十分でない。また、性質について理解はしているが、言葉で説明する力が不十分であると考えられる。</li> <li>けんび鏡を使う機会が多くないため、経験の少なさが要因と考えられる。実験の流れについては、問題解決型の学習過程が十分定着</li> </ul>                                  |

|            |   |  |
|------------|---|--|
|            | 立案に課題が見られた。   | していない。   |
| 英 語        | ・「日常会話の理解（聞き取り）」や「アルファベットの書き（小文字、聞き取り）」で誤答が多かった。  | ・アルファベットや単語の聞き取り、音声と文字の対応が不十分であると考えられる。  |
| 体 育        | ・体の動かし方や道具の操作に課題が見られる。また、持久力にも課題が見られる。<br>・体力テストの結果では、全国平均と比べて、握力・長座体前屈・ソフトボール投げが、男子・女子ともに低い結果となっている。著しく全国平均よりも平均が低いのが、握力である。   | ・昨年度から学級が増えているため、休み時間の校庭使用の時間が半分になっており、運動量の低下が一因と考えられる。                                    |
| 学力向上に向けた視点 |   | 年度末までの目標及び指標   |
| ① 各教科      | 国語  | ・学期末、学年末の確認テストにおいて、漢字の習得、読解問題において平均正答率を80%以上にする。<br>・記述問題の無回答率を5%以下にする。                    |
|            | 算数  | ・学期末、学年末の確認テストにおいて、平均正答率を80%以上にする。<br>・図形の領域において平均正答率を80%以上にする。                            |
|            | 社会  | ・学期末、学年末の確認テストにおいて、平均正答率を80%以上にする。資料を読み取り考察する記述問題の無回答率を5%以下にする。                            |
|            | 理科  | ・学期末、学年末の確認テストにおいて平均正答率を80%以上にする。「知識・技能」の項目は正答率を85%以上にする。「思考・判断・表現」にかかわる記述問題の無回答率を5%以下にする。 |
|            | 英語  | ・学期末、学年末のテストにおいて、正答率80%以上にする。<br>・英語専科講師、ALTによるパフォーマンステストにおいて、基本的表現を使って話せるようにする。           |
|            | 体育  | ・握力を男女ともに1kg増やす。<br>・長座体前屈の平均記録を前年度比3cm伸ばす。<br>・ソフトボール投げの平均記録1m伸ばす。                        |
| ② 授業改善     | <b>【目標】</b><br>・児童の学習状況を考慮した習熟度別指導、朝学習やアフタースクールを実施し、基礎基本の定着を図る。<br>・小グループによる検討や話し合いの時間、発表の方法などを工夫し、思考力、判断力、表現力を育む授業を行う。<br>・タブレット端末を中心にICT機器を活用して、視覚的、体験的に学習できる活動を多く取り入れる。<br>・ドリルパークを活用して、定着が不十分な児童が反復して取り組む機会をつくる。<br><b>【指標】</b><br>・各学期末、学年末のテストにおいて、平均正答率を80%にする。<br>・学校評価の保護者アンケート「学校は発達段階に応じてタブレット端末を活用している」の項目における肯定的な回答を85%以上にする。<br>・「令和7年度学習力サポートテスト」の全ての正答率を85%以上にする。 |  |
| ③ 家庭との連携   | <b>【目標】</b><br>・学校日より、学年の連絡、校内研究の取組などを連絡アプリ「tetoru」に掲載して、定期的・計画的に情報発信を行い、学校の方針、取組等を保護者に分かりやすく伝え、子どもの成長を共に支えてもらえるようにする。<br><b>【指標】</b><br>・学校評価の保護者アンケート「学校は保護者に出す文章や連絡等   |  |

|        |   |
|--------|---|
|        | <p>は、わかりやすく内容も適切である」において、肯定的な回答を85%以上にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価の保護者アンケート「学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切な対応をしている」において、肯定的な回答を80%以上にする。</li> </ul>                                |
| ④ 体力向上 | <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動量の確保とマイスクールスポーツにより、児童の基礎体力の向上を図る。</li> </ul> <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の運動への取組における自己評価の肯定的回答を85%以上にする。</li> </ul> |



## 【目標達成のための具体的な取組内容】

| ① 各教科 |   |
|-------|---|
| 国語    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレット端末を活用し、ドリルパークなどで漢字を繰り返し練習する時間を設けて定着を図る。</li> <li>・視写やモデル文を活用して書いたりする活動を増やし、漢字を日常の中で書く機会を意図的に設けることで、注意深く読んだり、書いたりする力を養う。</li> <li>・ペアやトリオなど様々なグループ形態での学習活動の中に伝え合いの場面を設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図る。</li> </ul>  |
| 算数    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科主任を中心に、学習の進め方、板書、ノートの使い方などについて教員間での共通理解を図る。</li> <li>・各単元の学習前にレディネステストを行い、個々の学習状況を把握し、本人の意思も考慮しながら習熟度別グループを編制する。</li> <li>・デジタル教科書、タブレット端末等を活用し、視覚的に分かりやすい授業を工夫する。</li> <li>・朝学習を週2回設定し、東京ベーシック・ドリル、ドリルパーク等を活用し、学年の課題となっている項目を中心に基礎・基本の定着を図る。</li> <li>・図形の学習では、正しく作図ができるように個別指導を丁寧に行う。</li> <li>・3年生以上の希望者を対象としたアフタースクールにおいて、個別に指導を行い、基礎・基本の定着を図る。</li> </ul> |
| 社会    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の読み取り、活用する活動を意図的に取り入れるとともに、自分の考えを記述する活動を毎時間行う。</li> <li>・グループ学習、学級全体での話し合いなど、様々な形態の活動を設定し、思考力・判断力・表現力を育む。</li> <li>・基礎基本となる用語をしっかり指導する。</li> </ul>  |
| 理科    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察・実験の器具等の使い方の指導を徹底し、安全に正しく使用する知識と技能を身に付けさせる。</li> <li>・タブレット端末や大型提示装置、実物投影機等を活用して事象提示や記録方法を工夫し、再現が難しい実験などの記録を補完する。</li> <li>・問題から仮説を立てる時に知識だけが先行しないよう筋道を立てて書くことができるように指導する。</li> <li>・問題から仮説、見通し、方法、結果、考察までの流れがつながるようノート指導を徹底する。</li> </ul>  |

|    |   |
|----|---|
| 英語 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語を使って授業が進められるように Classroom English の掲示をするなど、聞き取りや発話につなげる環境づくりをする。</li> <li>・英語講師、ALT と個別に対話する時間を毎時間設ける。</li> <li>・英語の語彙や表現を増やすために、ALT の発音を繰り返し練習する態度を育てる。</li> <li>・第5、6 学年においては、パフォーマンステストを実施する。</li> </ul> |
| 体育 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業において年間を通して、ボール投げなどボールを自在に扱う運動を短時間・複数回取り入れたり、短時間でできる効果的な柔軟運動を毎回取り入れたりする。</li> <li>・握力を意識した、小さいボールをつかんだり投げたりする運動を体づくりとして取り組む。</li> </ul>  |

## ② 授業改善

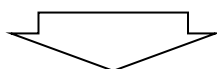
|       |   |
|-------|---|
| 取組 I  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやトリオなど様々なグループ形態での学習を設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図る。</li> <li>・タブレット端末や大型提示装置、実物投影機等を活用した事象提示や記録方法を工夫する。</li> </ul> |
| 取組 II | <ul style="list-style-type: none"> <li>・検討、まとめの時間における、論理的思考、根拠のある説明、学習のまとめを書く活動などについて、校内研究を生かした指導を繰り返し行い、個々の思考力・判断力・判断力を育てる。</li> </ul>             |

## ③ 家庭との連携

|        |  |
|--------|--|
| 取組 I   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月と3月の全校保護者会において、管理職から学校の取組についての説明を行う機会を設定する。</li> </ul>   |
| 取組 II  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより、学年だよりなどを連絡アプリ「tetoru」で配信するなど、ICT を活用した情報発信を行う。</li> </ul>  |
| 取組 III | <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月、12月に全学年で個人面談を行い、学習や学校生活の様子を知らせ、保護者と話し合うことで共通理解を図る。</li> <li>・次年度入学児童を対象とした入学前親子面談を行い共通理解を図る。</li> </ul> |

## ④ 体力向上

|       |   |
|-------|---|
| 取組 I  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・マイスクールスポーツである短縄、長縄への取組キャンペーンを設定し、全校で体力向上に努める。</li> </ul>    |
| 取組 II | <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の講師を招き、投げ方教室、走り方教室など各種スポーツ教室を行い、体力向上や技能向上に努める。</li> </ul> |



## 【取組結果の検証】

| 学力向上に向けた<br>視点 |    | 取組の成果   | 取組の課題及び<br>解決策   |
|----------------|----|---|--|
| ① 学力基盤         | 国語 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」の単元において、モデル文を活用し、説明文や意見文、推薦文など文章の種類に応じた書き方の特徴を学ばせることで、モデル文の特徴を生かして文章を書くことができる児童が増えた。</li> <li>・文章を書く機会を国語科だけではなく、いろいろな学習の中で取り入れることで、文章を書くことに慣れ、自分の言葉で書ける児童が増えた。</li> <li>・様々なグループ形態での学習場面を増やしたことにより、思考力・判断力・表現力の向上を図ることができた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を書くことが苦手な児童に対しては、引き続き書く活動を国語科の学習以外においても取り入れていく。</li> </ul>           |
|                | 算数 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の学習では、正しく作図ができるように個別指導を行った結果正確に作図できる児童が増えた。</li> <li>・3年生以上の希望者を対象としたアフタースクールを設定し個別指導を行い、基礎・基本の定着を図ることができた。</li> <li>・朝学習を週2回設定し、東京ベーシック・ドリル、ドリルパーク等を活用し、学年の課題となっている項目を中心に基礎・基本の定着を図ることができた。</li> </ul>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の定着を図るために、朝学習やアフタースクールを継続していく。</li> </ul>                          |
|                | 社会 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の読み取り、活用する機会を意図的に取り入れ、自分の考えを記述する活動を毎時間ごとに行った。資料を読み取る力と、自分の言葉で伝える力が身に付いた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容の確実な定着と資料を読み取る力を身に付けるため、継続的・系統的に活用力育成の指導を行っていく。</li> </ul>         |
|                | 理科 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題から仮説を立てる時に、知識だけが先行しないよう事象提示を工夫を考えた。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き事象提示の工夫を行い、問題から仮説、見通し、方法、結果、考察までの流れがつながるようノート指導を徹底していく。</li> </ul> |
|                | 英語 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元末に学習した内容をスピーチする活動を取り入れ、話すことと同時に聞き取ることに意識して取り組む児童が増えた。</li> <li>・ALT と個別に対話する活動を毎回取り入れ、単元ごとにパフォーマンステストを実施した。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・発話を意識した授業計画を立て、英語で話したり聞いたりする時間の充実を図る。</li> </ul>                       |

|          |           |   |   |
|----------|-----------|---|---|
|          | <p>体育</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して、ボールを扱う運動を定期的に取り入れた。体力テストにおいて投力の平均が伸びた学年があった。</li> <li>・各学年で長縄の記録を競うことで、休み時間に自主的に練習する姿が見られた。</li> <li>・体育朝会や外部講師による指導を体育の学習でも意識して取り入れたことで、体の使い方を身に付けることができた児童が増えた。</li> <li>・体づくり運動を年間通して帯で取り、体力と柔軟性の向上が図れた。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年に応じた学習カードを発達段階に応じた内容にすることで、自主的・意欲的に練習できるようにし、運動への関心を高めていく場の設定を行う。</li> </ul>                              |
| ② 授業改善   |           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器を各学年で積極的に活用することで、児童の興味・関心を高めることができた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「既習事項を使えば解決できる」という見直しをもてるようにし、問題解決型学習の学習過程を明確にする。</li> </ul>  |
| ③ 家庭との連携 |           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・tetoruにて、学校・学年便り等を毎月保護者に配信し、教育活動について伝えるとともに、理解と協力を求めることができた。</li> <li>・保護者アンケートでは、「学校は保護者にとって連絡や相談がしやすく、適切な対応をしている」に肯定的な回答が見られた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭においても宿題などで効果的に活用できるよう全校で活用方法について見直していく。</li> <li>・保護者会や個人面談を学期ごとに定期的に設定し、児童の様子を共有する場として活用していく。</li> </ul> |
| ④ 体力向上   |           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・短縄、長縄の活動に学校全体で取り組み技能が向上した。</li> <li>・体育朝会や外部講師による取組を体育の授業の中でも継続して指導することで、児童の意識が高まった。</li> <li>・運動委員会が休み時間に持久走と体を動かす取り組みを計画し、低学年中心に参加する児童が多く見られた。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育朝会など、体育行事の年間計画を見直し、効果的に外部講師を活用していく。</li> <li>・委員会活動で児童が中心となって運動を喚起する活動を引き続き行っていく。</li> </ul>              |